



(QRコード)

カラー版はHPでご覧いただけます。

地区対抗

大井川地区、2連覇！

第 46 回地区対抗及び第 15 回関係会社親睦あゆ友釣競技大会は、梅雨明け直後の 7 月 9 日、伊久美川で行われました。

容赦なく照りつける強い日差しに濃緑の木々を揺らして川面を渡る風も遮られ、伊久美川は厳しい暑さの中にありました。しかし選手たちは思い思いのポイントに釣り糸を垂れ、時間一杯釣果を競いました。

団体部門の地区対抗戦では、大井川地区が平成 21 年度(22 年度は中止)に引き続き 2 年連続優勝を果たし、前回 6 位の川根地区が 2 位に躍進しました。

関係会社では参加チームが 2 社と少ない中、特種東海製紙(株)が総重量 1,334g と健闘しました。

結果は次のとおりです。

◆地区対抗 (団体)

順位	地区名	尾数	重量(g)	前年順位
1	大井川	40	1,679	1
2	川根	34	1,273	6
3	島田	33	1,221	3
4	伊久美川	21	974	4
5	金谷	21	864	5
6	北川根	20	854	2
計		169	6,865	—

◆会社対抗 (団体)

順位	会社名	尾数	重量(g)	前年順位
1	特種東海製紙(株)	36	1,334	1
2	中部電力(株)	21	820	2
計		57	2,154	—

お知らせ 組合員・一般あゆ友釣り大会

8 月下旬頃、大井川本流での開催を予定していた本大会ですが、天候不順等で川の条件が整わず、やむなく中止することとなりました。

来年は河川の状態が良ければ開催したいと考えておりますので、奮ってのご参加をお願いします。

(参加資格) 組合員または当組合年券購入者



7 月 9 日(土)、釣果を競う地区代表選手たち(伊久美川)

◆個人の部

順位	氏名(地区)	尾数	重量(g)
1	牧野由直(金谷)	12	464
2	津島和夫(大井川)	10	461
3	村松賢一(川根)	10	396
4	宮脇政一(川根)	11	384
5	西條信二(特種東海)	10	381
6	増田忠志(大井川)	10	370
7	下田 勝(大井川)	8	364
8	新井 哲(島田)	8	332
9	齋藤喜芳(島田)	11	315
10	長嶋良忠(北川根)	8	306

個人対抗部門では金谷地区の牧野由直氏が 12 尾、464g でトップを飾り、大井川地区の津島和夫氏が 10 尾 461g と、3g の差で 2 位になるなど激しく釣果を競いました。また、「若い者には負けない」と川根地区の村松賢一氏(74 才)が 10 尾 396g で敢闘賞を受賞しました。



地区対抗表彰式の様子(伊久美、やまゆり)

県内 23 漁協、釣果を競う

第 58 回静岡県あゆ友釣競技選手権大会

8 月 21 日（日）、浜松市春野町地先の熊切川を会場に県内 23 漁協 115 名の選手が参加して開催されました。

競技の結果は地元の気田川漁協 A チームが天竜川漁協チームを僅差で破り、県大会では初優勝の栄冠を勝ち取りました。

当初、会場としていた気田川本流が大会前夜の雨により状態が悪化し、当日急遽「熊切川への会場変更」をする予想外の事態が起こり、スタートからつまづくという最悪の条件の中で釣果を競うことになりました。更に競技中は時折激しい雨に見舞われるなど、全体に低調な釣果を余儀なくされ、釣果 2 尾以下（おとり含む）の選手が 40 名と全体の 35% を数えました。当組合は残念ながら団体 15 位の成績でしたが、捲土重来を期して次回の好成績を目指します。

当日の成績は次の通りです。



当日未明の雨で濁りつつある中、懸命に競う選手（熊切川）

◆団体の部

順位	漁協名	総重量(g)	尾数
1	気田川 A	1, 3 7 4	3 3
2	天竜川	1, 3 1 2	3 2
3	狩野川	1, 2 9 8	2 4
4	新大井川	1, 2 3 4	2 7
5	安倍藁科川	1, 1 4 0	2 1
6	河津川	1, 0 7 4	2 3
7	稻生沢川	1, 0 1 8	1 9
8	阿多古川	9 8 6	2 0
9	鯨ヶ池	9 6 2	1 9
10	仁科川	9 4 8	2 2

◆個人の部

順位	氏名(漁協名)	重量(g)	尾数
1	鈴木俊一(気田川 A)	4 8 8	1 1
2	鍬竹大介(天竜川)	4 7 0	1 1
3	大川 司(伊東市松川)	3 9 0	6
4	滝尾伸悟(新大井川)	3 8 6	9
5	宮脇政一(大井川)	3 6 8	7
6	鈴木茂豊(気田川 B)	3 5 2	6
7	高柳照人(仁科川)	3 4 6	9
8	河村俊英(安倍藁科川)	3 4 4	6
9	森下雄司(天竜川)	3 4 2	9
10	和泉 誠(稻生沢川)	3 4 0	6

今年の放流実績

1. 鮎放流

昨年より 2 週間ほど早い 3 月 30 日、伊久美川へ河口産 150 kg の放流を皮切りに 7 月 15 日までに 1,800kg の放流を行いました。この間、5 月は集中豪雨による川の濁りで放流中止となるアクシデントもありました。

(単位: kg)

種苗の種類	河口産	人工ふ化	合計	
大井川本流	0	1,030	1,030	
支流	伊久美川	300	450	750
	大代川	0	20	20
計	300	1,500	1,800	

2. その他の放流

あまご 6,000 尾、うなぎ 1,000 尾、にじます 5,000 尾 (12 月頃予定)



↑ 6 月 7 日、伊久美小児童の放流体験

あゆ漁期が激減

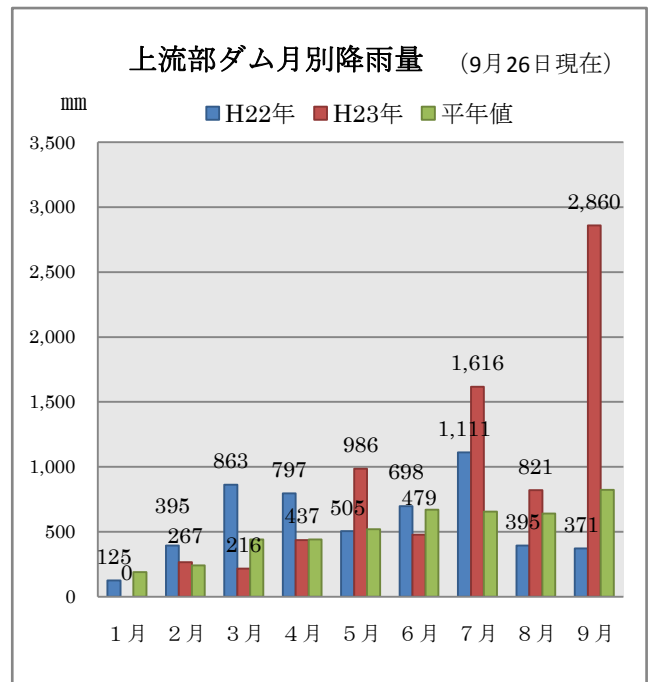
降雨量からの考察

平成 22 年、23 年はいつもの年と何か違うように思います。

2 年続けての猛暑、そして平年を上回る降雨量に翻弄され、苦戦を強いられた内水面漁業。「ここまで厳しい結果になるとは…」と関係者の嘆きが聞こえてきます。

そこで、この 2 年間の降雨量の視点からあゆ漁のいわゆる適期を中心に遡上や放流状況等を関連させながら考察してみました。

降雨量：畑薙第一ダム、井川ダムの月毎合計値
 期間：平成 22 年 1 月～9 月
 平成 23 年 1 月～9 月 26 日
 観測：ダム管理者雨量計（畑薙第一・井川）
 提供：中部電力株式会社



平成 22 年 濁りが長期化

昨年はあゆ遡上期 (2～4 月) に 2,055 mm という平年 2 倍以上の雨量を記録。長期にわたる降雨と濁水により遡上が大幅に遅れ、予定量の稚鮎採捕に 5 月中旬までの期間を要しました。

5 月は通常の雨量に戻り放流可能となりましたが、6 月以降の局所豪雨により雨量が増大。7 月までの年間累計雨量は 1,809 mm を示し、降雨日は 27 日を数えるなど、8 月中旬まで本流の濁りが続く一因となりました。

そのため、県あゆ友釣り選手権は伊久美川での実施、更に本流で開催予定としていた地区対抗競技会は中止となりました。

9 月以降になると本流にも多少の澄みは戻りましたが、長期にわたる汚濁水が影響してか釣り人は少なめで釣果の伸びもなく、結果として本流は実質的な遊漁期間の短縮となりました。

平成 23 年 天候不順、漁期を更に圧迫

2 月～4 月までの雨量は平年値で推移し、川の状態も良好。あゆの遡上も昨年に比べ早く、4 月 8 日には予定量の採捕を終了しました。

あゆ放流も 3 月 11 日に発生した東日本大震災による福島原発事故に伴う計画停電を懸念し、伊久美川に早期放流を順調に行いました。しかし、5 月に入り月間雨量 986mm という平年値 2 倍以上の雨量と上流部の集中豪雨により川の状態が一変して悪化。本流での放流は中止しました。

更に天候不順は 7 月～8 月にかけて 2,439mm (平年 1,292mm) という平年値の 2 倍の降雨量を記録し、更に 9 月には 2 個の台風襲来等異常なまでの降雨により濁りが長期化し、漁期の減少に追い打ちをかけるなど、厳しい河川環境が続いています。

2011年台風被害(12号,15号)



台風 15 号後も魚道に残る堆積土砂。来春、整備予定です。(川口地先)



↑ 9 月上旬、本流で採捕した鮎。(全長 10～15cm) 濁水などによりやせ気味で、生育が遅れているようです。



台風 12 号の影響で川いっぱい増水した蓬萊橋付近

大井川は友だち

8月19日(金)にプラザおおりで大井川川まつりを開催。

発電、農業用水、そして飲み水などに利用され、市民の生活と関わり深い大井川の水の働きを体感し親しむ目的で、今年13回目を迎えました。

今年のテーマは『水の力』。水が入ったビーチボールを川にして斜面から転がし人に与える衝撃を体験するコーナーをセットしたり、大井川に生息する魚や浄水場の仕組みを説明するコーナーも設けました。



(上)恒例の大井川水族館。
(右)展示されたアマゴなど

県内漁協

運営実態調査

この調査は、県内各漁協の運営実態を把握し今後の組合運営の資料とするため、静岡県内水面漁業協同組合連合会が各河川の漁協に協力をお願いし実施するものです。

調査項目は次の通り。

1. 鮎放流(種類、方法など)
2. 鮎種苗にかかる環境
(造成、整備、調査、川鵜対策、地域交流など)
3. 漁場管理
(遊漁料、餌釣り区域、監視員など)

調査の結果については、詳細が分かり次第、掲載をしていきたいと思っております。



5～9月 業務報告

- 5/23 警察署に違法漁業取締協力の依頼
- 25 県水産資源課と打ち合わせ
- 27 漁協通信第9号発行
- 30 河川監視員会議
- 31 有害鳥類駆除終了 川鵜捕獲100羽
〃 専従監視員の河川監視開始
- 6/ 1 大井川あゆ漁解禁
〃 鍋島・川口地先違法漁業監視開始(土・日)
- 6 島三小「いきいき活動」に協力
- 7 あゆ150kg放流(伊久美川)
〃 伊久美小放流体験
- 9 企画運営委員会
- 19 伊久美川地区によるテープ撤去・清掃作業
- 21 伊久美川あゆ漁解禁
- 28 あまご6,000尾放流
- 30 鍋島・川口地先の違法漁業監視終了
- 7/ 1 あゆ200kgを放流(伊久美川)
9 地区対抗競技大会(伊久美川)
〃 第4回理事会 エサ釣り区域について
- 12 あゆ餌釣り区域標示を設置(カサ岩)
- 15 あゆ250kgを放流(本流4か所)
- 23 国交省による合同河川パトロール
- 24 市社会教育課によるボート下り(伊久美川)
- 28 監事会(平成23年度上期 会計監査)
- 8/13 夏季休暇(～16日)
- 19 第13回大井川川まつり(新漁協担当)
- 21 県あゆ友釣競技選手権大会(熊切川)
- 31 うなぎ1,000尾放流
- 9/ 1 投網、たも網漁解禁に伴う漁場監視
- 12 うなぎ採捕の期間延長要望について(県庁)
- 27 第5回理事会 平成24年度放流計画外



編集後記

遊漁料収入が年々減少しております。異常気象による河川の荒廃が鮎の生育を阻み、不漁が続いていることが一因と考えられます。一方、遊漁離れの進んでいることも看過できないと思います。

県内各漁協と連携し、現状に即した対応策を講じていくことが急務ではないでしょうか。(小林)